

東海旅客鉄道株式会社

平成17年度中間決算

補足資料



愛知万博への取組み(1)

1

①東海道新幹線、在来線とも、安全・安定輸送を完遂

◆東海道新幹線:臨時列車を積極的に増発、万博入場者約2,200万人のうち推計で約170万人がご利用

(運転本数(対前年比):のぞみ122%、全体111%)

⇒旅客輸送人キロ(対前年比)107%

◆在来線:エキスポシャトル約15,000本を運転、万博入場者のうち推計で中央線を約310万人、特急列車を約3万人がご利用

⇒旅客輸送人キロ(対前年比)103%

②企画きっぷの設定、宣伝展開等により、お客さまを誘致

◆「愛知万博往復きっぷ」:203万枚を販売

(うち新幹線関連58万枚)

・方面別割合:関東55%、関西20%、
中国・四国15%、その他10%

※方面別割合は、新幹線万博往復きっぷの発売実績による



愛知万博への取組み(2)

- ③ 単独館として出展した「JR東海超電導リニア館」において、超電導磁気浮上方式鉄道の技術の先進性や完成度の高さをアピール

◆ 来場者数: 約690万人(万博来場者数約2,200万人の約1/3)

- ④ 関連事業における積極的な取組みを実施

◆ マリオットアソシア: 平均稼働率約98%

◆ タカシマヤ: 来店者数約1割増加

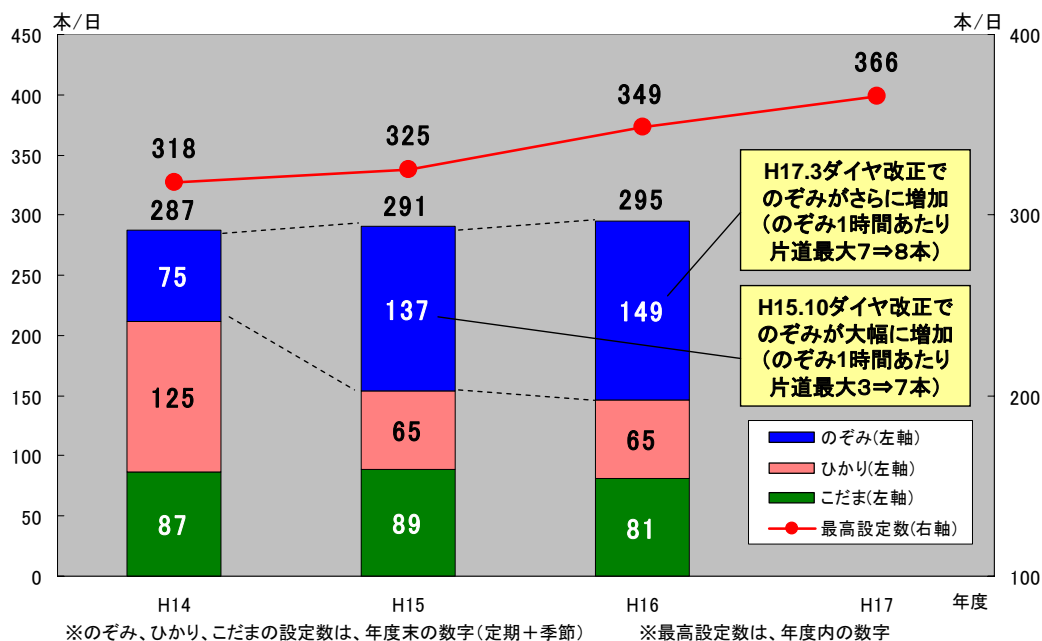
◆ キヨスク: 名古屋駅の売上が約5割増加



JR東海超電導リニア館

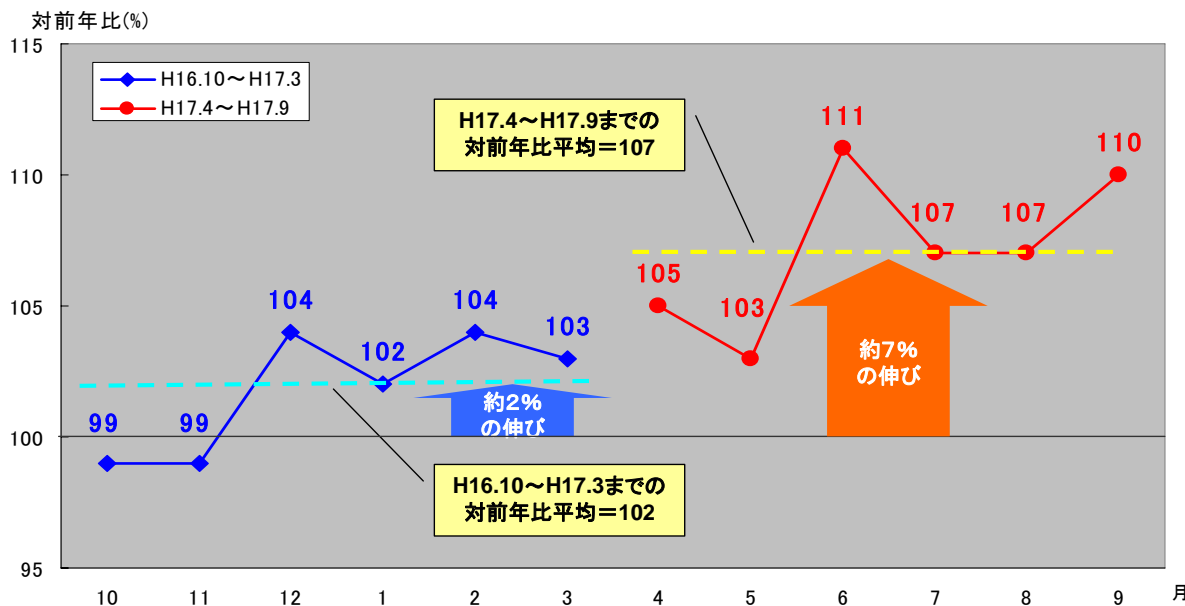
東海道新幹線の輸送力増強

- ◆ 平成17年3月にさらにブラッシュアップされたダイヤを活用し、「愛知万博」期間はもちろん、ご利用の集中する時期・時間帯にタイムリーに臨時列車を増発



平成17年度上期における東海道新幹線のご利用状況

◆万博効果等により、東海道新幹線の輸送量は非常に順調に推移



◆山陽区間への直通列車のご利用状況も非常に好調に推移

京浜～山陽区間:対前年比110%

※平成17年上期の実績(今回特別集計した数字)

万博効果総括、年度見通しの変更

単位:億円

	上期			想定万博効果		下期		年度	
	実績	対前年	対予想	現在想定	当初想定	予想	対前年	予想	対前年
				345	150-160				
連結営業収益	7,406	+428	+290	345	150-160	6,998	-118	14,405	+310
単体営業収益	6,091	+348	+252	266	100	5,677	-72	11,769	+276

※連結の想定万博効果は単純合算の数値

【参考】

旅客運輸収入	5,781	+349	+249	266	100	5,359	-64	11,140	+284
対前年比	106.4%					98.8%		102.6%	

◆上期:当初想定以上の万博効果等により、大幅に収益が増加

- ・連結営業収益:連結子会社における万博効果は、約80億円と想定
- ・単体営業収益/旅客運輸収入:万博効果は約266億円と想定
(うち新幹線247億円、在来線19億円)

◆下期:万博による旅行需要の反動、前年下期における万博効果がなくなることにより減収を見込む

- ・単体は年度初予想通り、連結は年度初予想と比べて15億円の減収を見込む

◆年度:単体は対前年276億円、連結は対前年310億円の増収を見込む

① エクスプレス予約

◆ サービス区間拡大

- ・平成17年12月に新神戸まで拡大
- ・平成18年夏までに東海道・山陽新幹線全駅で利用可能に

◆ エクスプレス予約グリーンプログラム

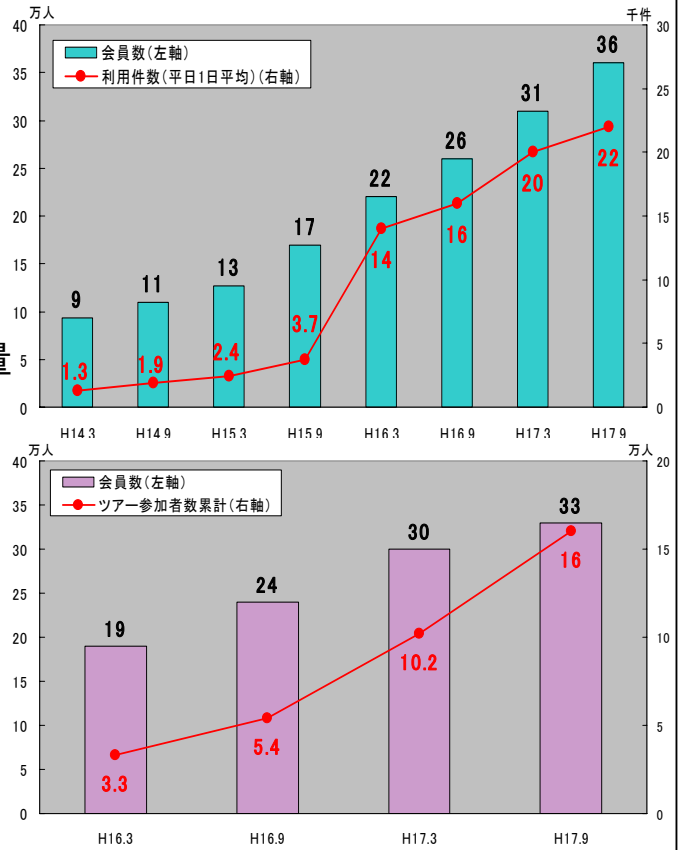
- ・利用に応じてポイントを蓄積、一定量に達すると、グリーン席を普通車指定席のおねだんで利用可能

◆ エクスプレス予約ICサービス

- ・平成17年5～8月に実証試験実施
- ・実用化目標時期：平成19年度

② JR東海50+

- ◆ 京都をはじめとして、東京、大阪、神戸、山陽、九州商品の充実を図る



安全・安定輸送の確保に向けた設備投資(1)

① 安全性向上

◆ 在来線車両の新製(約250億円) 平成18年秋以降、順次営業運転開始

- ・313系204両を新製⇒在来線の81%がJR発足以降の車両に

◆ 在来線における安全対策(約24億円)

- ・車両安全装置(運転情報記録装置、緊急列車停止装置、緊急防護装置)の設置(平成19年度末までに順次設置)
- ・運転士訓練シミュレータの導入(平成18年7月までに順次導入)
- ・速度超過防止用ATSを51箇所を設置(平成18年度末までに完了)



313系電車



電車・気動車運転シミュレータ

安全・安定輸送の確保に向けた設備投資(2)

②地震対策

- ◆**地震防災システム機能強化(7億円)** 工期:平成17年9月～平成19年9月
 - ・「早期地震警報システム(テラス)」の検知点増設(14箇所⇒21箇所)
 - ・沿線地震計の増設(25箇所⇒50箇所)
- ◆**盛土の耐震補強(約115億円)** 工期:平成17年5月～平成20年度末
 - ・地質調査の結果、約6.5kmを追加補強
- ◆**高架橋柱耐震補強(約30億円)**
 工期:平成17年5月～平成20年度末
 - ・東海地震「想定地震波形」公表後の検討結果、約2,000本を追加補強



※増設箇所は平成19年9月までに整備予定(箇所名は仮称)

東海道新幹線各駅のリニューアル及び商業施設の再編・強化

- ◆東海道新幹線各駅の改良を着実に進めるとともに、可能な限り商業施設の拡充、再編・強化を図る

	名古屋駅(改札内等)	静岡駅	浜松駅	米原駅	京都駅
開業予定	平成21年春	平成19年夏	平成19年秋	平成21年春	平成19年春
事業費	約79億円	約50億円	約40億円	約20億円	約39億円
店舗面積の拡大	※平成17年3月に完了した改良において、 約1,100㎡ ↓ 約1,400㎡(+300㎡)	約5,400㎡ ↓ 約6,400㎡(+1,000㎡)	約3,600㎡ ↓ 約4,100㎡(+500㎡)	—	約2,500㎡ ↓ 約3,400㎡(+900㎡)

※事業費には耐震補強に関するものを含む
※商業施設関連の事業費は別途子会社が負担



京都駅(八条口)改良完成予想図

関連事業

①JR東海新横浜駅ビル(仮称)計画

- ◆総事業費:約400億円(駅改良含む)
- ◆延床面積:全体約90千 m^2 、駅ビル約75千 m^2
(駅・都市施設等を除く)
- ◆平成17年7月:着工、平成20年:開業(予定)



JR東海新横浜駅ビル(仮称)完成予想図

②セントラルスクエア静岡

- ◆総事業費:約42億円
- ◆敷地面積:約37千 m^2
- ◆平成17年11月3日:開業(予定)



セントラルスクエア静岡

③NAGOYA CENTRALGARDEN

- ◆敷地面積:約38千 m^2
- ◆平成17年6月:着工、10月:第1期販売開始
平成19年春:開業(予定)